

ロータリーの
職業奉仕入門

はじめに

～「ロータリーの職業奉仕入門 Q&A」作成にあたって～

職業奉仕はロータリーの根幹である、あるいは職業奉仕はロータリーの金看板という言葉が先輩諸兄からよく耳にします。他の奉仕団体と違い、ロータリークラブは職業分類という考えがあり、職業を持った者が集うというのが基本です。そして「職業を通して社会に奉仕する」ということが、職業奉仕の考え方であり本質です。しかしながら職業奉仕はよく解らないという言葉も耳にします。私自身もそのうちのひとりでした。クラブに入会させていただいて最初の数年、職業奉仕が何なのか全く解っていませんでした。ただ漠然と職業奉仕の事業である、クラブフォーラムや職場見学に参加していました。そんな私が 2012 年 - 2013 年度にクラブで職業奉仕委員長を仰せつかりました。初めての理事、委員長ということで予定者の段階に職業奉仕について勉強したいと思いましたが、何から学べばいいのかどんな本を読めばいいのか、困ってしまって手さぐりで勉強をした経験がありました。そして地区委員会にも質問を寄せたりしました。そのご縁で地区職業奉仕委員会に出向させていただき、今日まで勉強させていただきました。

こんな私自身の経験からロータリーに入会されてまだ日の浅い方や、初めてクラブで職業奉仕委員長をなされる方の参考書を作ろうと考えました。ロータリーの奉仕活動をビジュアルで表した「ロータリーの樹」の紹介、またロータリーの歴史から奉仕理念の確立、そして 4 つのテストとの関連まで出来る限り解りやすく、また Q&A の部分も入れて読みやすく書いております。この入門書の内容は RI で承認を受けた様な公式なものではございませんが、地区職業奉仕委員会で議論を重ね、委員会 OB の方々の考えを受け継ぎ、まとめあげたものです。この入門書で一人でも多くの方が職業奉仕に関心を持たれて、その考えを追求されることの一助となれば幸いです。

最後に本書作成のプロジェクトリーダーをお引き受けいただいた地区職業奉仕委員会、高杉英一副委員長と本年度委員会メンバーに感謝申し上げます。ありがとうございました。

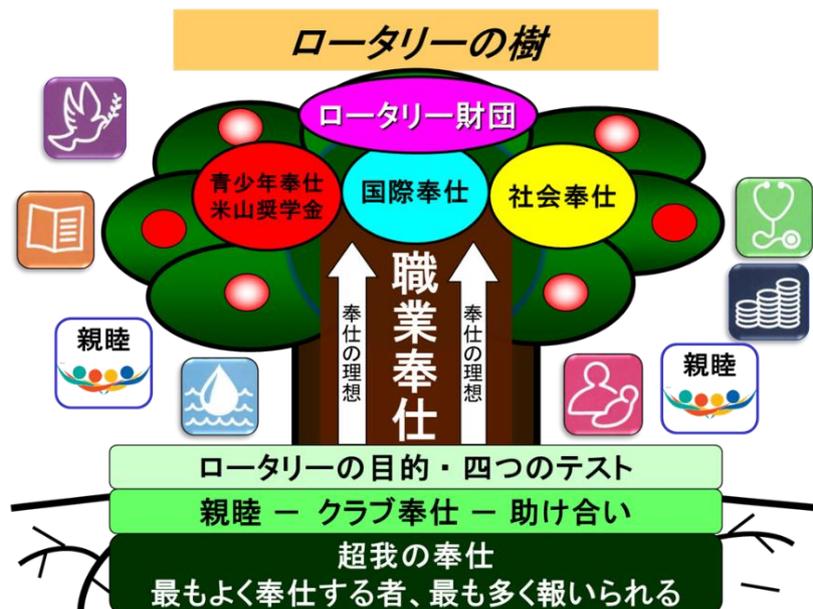
2015 年 - 2016 年度 第 2660 地区
地区職業奉仕委員会
委員長 田中 徳彦
(大阪西南ロータリークラブ所属)

ロータリーの職業奉仕入門

「ロータリーの樹」はロータリーの職業奉仕を理解する最もよいと資料と思われます。これは、2008年 RI 国際協議会の全体会議において、渡辺好政 RI 理事が「ロータリーの樹・2008」と銘打ってロータリーを「一本の樹」に例えて、ロータリーの奉仕活動における職業奉仕の位置づけを行いながら、「ロータリーにおける職業奉仕の重要性について」の講演を行った時のものを一部修正し、シカゴにおいて開催された「2013年 RI 規定審議会の審議を経て採択されたもので、以下は渡辺好氏の説明です。

「1905年、ポール・ハリスら4名によって創始された最初のロータリークラブは、その歴史が示すように、初めに、親睦、助け合いから始まりました。すなわち、ロータリーの樹に水と栄養を送る「根」は「クラブ奉仕」であります。ロータリークラブ会員は、クラブという学校で相手のことに思いを馳せ、相手を助けるという『奉仕の理想』を学び、その真意が『共存共栄』であることがわかります。『クラブ会員』は、ロータリーの目的を基本として、H.テラーによって実証され、ロータリアンの行動規範である「四つのテスト」による奉仕活動の実際を体得することによって、『ロータリアン』に進化してまいります。ロータリークラブ会員からロータリアンに進化してゆく過程の基盤には、F.コリンズの『超我の奉仕』、A.シェルドンの『もっとも奉仕するもの、最も多く報いられる』が存在いたします。私たちは、この2つのモットーを1枚のコインの表・裏と考えながら、日常の奉仕活動に邁進しております。ロータリーは「理念の高唱」に終わるのではなく、「行動の哲学」なのであります。」

ここで話されているところを、ロータリーの歴史の中で見ていくことにしましょう。



ロータリーの奉仕の理念の確立

- 1905 ポール・ハリス 「親睦」でスタートする。
- 1906 ドナルド・カーター 「奉仕」の考え方を持ち込む。
- 1911 ベンジャミン・フランクリン・コリンズ
奉仕は「自己犠牲」(Service not Self)と提唱する。
- 1912 ロータリーの目的が採択される。
- 1912 アーサー・フレデリック・シェルドン
コリンズの「自己犠牲」はいきすぎであるとし
「超我の奉仕」(Service above Self)に修正する。
- 1915 ロータリーの倫理訓が採択される。
- 1921 アーサー・フレデリック・シェルドン
「他人に最もよく奉仕する者が、最も多く報いられる」を提唱する。
- 1931 ハーバード・テラー
会社再建のため「四つのテスト」考案し実践する。
その後 RI 理事会は「四つのテスト」を職業奉仕の構成要素として採用する。
- 1954 ハーバード・テラー「四つのテスト」の著作権を RI に寄贈する。

ロータリー誕生当時の定款 (シカゴクラブ)

一人一業種制度の限定会員制クラブとして4名で創立する。

第1条 会員の事業上の利益の増大

第2条 社交クラブに付随する親睦

創立時は「親睦」団体で“Back Scratching”(お互いの背中を搔きあう)の世界であったが、
やがて奉仕を行うクラブに変わっていった

ドナルド・カーター入会物語 (奉仕の理念の導入)

入会を誘われたカーターは、一業種一会員制は自分達だけのエゴイズムであり、他の同業者、一般地域社会の職業人達はどうなるのかと疑問を呈した。そこで、定款を改正し

第3条 シカゴ市の利益をより推進し、市民の中にシカゴ市に対する誇りと忠誠の精神を普及することを追加した。奉仕の理念「われらの親睦のエネルギーを世のため人のために」が導入されたことにより、
ドナルド・カーターは喜んで参加した。

ロータリーの目的(1912)

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。具体的には、次の各項を奨励することにある。

第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること。

第2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、
社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものとする。

第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において

日々、奉仕の理念を実践すること。

第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。

ロータリアンは一人一人が自らを高め、日々奉仕の理念を実践することを説き、その対象は、事業のみならず社会生活にわたっている

ロータリーの倫理訓(1915)

要旨

この倫理訓の目的は、個人の完成をその基礎とし国家の永続はただ自我を温存するためなりとの立場をとるギリシャ的倫理観ではなくして、この倫理訓の根本前提は、愛なのである。すなわち、ロータリアンが正しいことをなすのは、単に自我を温存させるためだけではないのであって、他人を滅すよりはむしろ 他人に滅されんことを選ぶ、という立場をとるからである。

奉仕は個人の完成を前提とし、他者を先に考えることを説いている

奉仕の思想の確立

1911年ベンジャミン・フランクリン・コリンズは「ロータリーの奉仕というものは、自分を犠牲にして宇宙を支配している神に帰依すること、これがロータリーの奉仕であると「Service not self」を提唱した。これに対し、アーサー・フレデリック・シェルドンは「ロータリーは宗教的なクラブではない、自己犠牲は行き過ぎだ」とし、「Service above self」(超我の奉仕)を提唱した。そして、シェルドンの「超我の奉仕」ロータリーの奉仕の理念となった。さらに、1921年にシェルドンはロータリーの行動理念として「One profits most who serves best」(他人に最もよく奉仕する者が、最も多く報いられる)を提唱した。こうして、これらが奉仕の理念となった。

2つのスローガンは渡辺好政の言うようにコインの裏表の関係
つまり理念と行動理念の関係にある

「四つのテスト」成立の物語

ハーバード・テーラーは、1931年にクラブ・アルミニウム社(従業員250人)の再建を引き受けた。当時、社は経済恐慌のあおりで破産状態(40万ドルの借金)であり、またアルミ食器業界の現状は大変厳しかった。テーラーは、如何にすれば再建が可能になるか6週間の沈黙考し、この状態を切り抜けるためには、全員が極めて倫理的な立場をとらねばならぬと考えた。正義こそ力の源だ。従業員が正しさに耳を傾け、それによって行動するよう管理運営ができれば万事うまく行くと思い、そこで、社内中の誰もが頭の中に納め、そして対人関係での思考と言動に応用できるような座右銘が必要であると考えた。こうして出来上がったのが「四つのテスト」である。

1930年代のクラブ・アルミニウム社では、あらゆることが、四つのテストに照らして判断され、やがてディーラーや顧客、従業員の間、同社に対する信頼と好意が生まれていった。四つのテストは、社風の一部となり、やがてクラブ・アルミニウム社に対する信望は高まり、財政の改善に寄与することになり、こうして、1937年までに、同社の負債は完済され、その後の15年間では、株主対して100万ドル以上もの配当が支払われ、同社の純資産は200万ドル以上に達した。

その後、RI理事会は「四つのテスト」を職業奉仕プログラムの構成要素として採用し、ロータリーの行

動規範とした。ロータリー創立 50 周年に当たる 1955-56 年度 RI 会長に就任したハーバード・テラーは「四つのテスト」の著作権を RI に移譲した。

四つのテストはロータリアンの行動をテストするものです

四つのテスト

「言行はこれに照らしてから」

真実か どうか

みんなに公平か

好意と友情を深めたか

みんなのためになるか どうか

ロータリーの奉仕

ロータリーの奉仕は「Thoughtfulness of and helpfulness to others」（思いやりの心をもって他人のために尽くす）と説明されています。奉仕は一般に「世のため人のために尽くす」と理解されているが、ロータリーの奉仕は、一方通行のものではなく、他人を思いやることと対になった理念であることを説いています。

ロータリーの奉仕の理念の日本への導入

ロータリーの理念が日本に入ってきたとき、大いに研究がなされた。実は日本では江戸時代から同様な考え方「商人道」があり、近江商人の「三方よし」はその代表的ものである。また下村彦江門の「先義後利」はまさに「Service above Self」と考えられるでしょう。このような背景から、ロータリーの奉仕の理念は日本ロータリーにスムーズに受け入れられたと思われる。

「入りて学び、出でて奉仕せよ」

ロータリーでは、この標語がよく使われています。「入りて学び」はロータリーがロータリアンの修練の場であること（内なる人づくり）、「出でて奉仕せよ」はロータリアンが外に働きかける人づくり（外なる人づくり）のことで、人づくりはこれらが両輪となって行うものとの意味でしょう。

米山梅吉氏は、ロータリーは「人生の道場である、人づくりの修練の場」と言っています。

「ロータリーは人づくり」について

歴代の RI 会長は「人づくり」について次のように述べています。

1954-1955 RI 会長ハーバード・テラー

“Rotary is maker of friendship and builder of men”「ロータリーとは、友情を育み、人と社会をつくり、世界各国の人々の間に善意と友情を芽生えさせる団体である」、「ロータリーのしなければならない大きな仕事に人格者を育てること、つまり人づくりではないかと、私は思っています。政界や実業界において、また地域社会や家庭において - 生活の様々な領域において有能な役に立つ人物を育成すること - そのことこそローリー・クラブのなすべき仕事ではありますまいか。よい市民、よい指導者を育て上げることは是非必要なことであります。」

1974-75 RI 会長ビル・ロビンズ

“Rotary’s first job is to build men”「ロータリーが最初に行うべきことは人づくりである。」

1982-83 RI 会長向笠広次

「ロータリーの効果は精神的汚染の治療にとどまらず、個々のロータリアンの性格をも変えるという積極的効果をもたらす。つまり、真に熱心なロータリアンに対する報いは、より親切な心と優れた性格が与えられることである。」

ロータリーの社会に果たす役割

社会不祥事が多発し、世界各国の自己主張が対立している状況をかんがみると、ロータリーの行動哲学は益々重要性を増しているように思われます。「共存共栄の哲学」、「人づくりの哲学」を学び行動することはとても大切なことと考えられます。佐藤千寿氏は「ロータリアンはみな善人だ。しかし善人であるだけではだめなのであって、我々は積極的に善をなさなければならない。我々が黙っていてもちっともよくなるのだ」と説いています。

ロータリーは一人一人が行動する集まりなのです

“ロータリーの” 職業奉仕について

この小冊子のタイトルを職業奉仕としないでロータリーの職業奉仕としました。職業奉仕は職業を通して世のため人のために尽くすということですから、近江商人の「三方よし」のように職業倫理をもって自らの職業を行うということでしょう。ロータリアンはこのことを順守することは当然のことですが、それに加えて「人づくり」と、そのことを通した社会への奉仕の実践が求められています。「自らを成長させながら奉仕を続ける」このことを明示するために「ロータリーの」という冠を付けています。

『ロータリアン』について

「ロータリーの樹」の説明では、「クラブ会員」はロータリーの目的を基本として「四つのテスト」による奉仕活動の実際を体得することによって、『ロータリアン』に進化してまいります、と説かれています。ここで言われている『ロータリアン』は真の（究極の）ロータリアンと考えられます。“進化し続ける”ことが大切で、進化し続ける会員は「ロータリアン」と呼ばれるにふさわしいと考えられます。ロータリーは成長を続ける団体なのです。

Q&A

<ロータリーの樹について>

Q ロータリーの樹は成長していくのでしょうか？

A 樹ですから当然成長していきます。年輪を重ね幹は太っていきます。また、樹になる果実も変わっていくことでしょう。しかし「根」と「幹」は変わりません。私たち会員は、幹が太ってゆくよう奉仕活動を行っていかねばなりません。成長をとめないで成長を続ける樹であり続けること、そのためには奉仕を実践することが必要でしょう。ロータリーの奉仕の哲学の根底には人づくりがあり、2つのモットーと四つのテストを常に心に置きながら行動しなければなりません。

Q ロータリーの奉仕とロータリーの職業奉仕の違いはあるのでしょうか？

A ロータリーの職業奉仕は、ロータリーの奉仕の理念をもとに職業を通して奉仕することと考えられます。このように考えると、ロータリーは職業人のあつまりですから、ロータリーの職業奉仕とロータリーの奉仕と同じであると解釈してもいいのではないのでしょうか。

Q クラブ奉仕と職業奉仕はどのような関係になっているのでしょうか？

A ロータリーの樹で説明されているように、クラブ奉仕はロータリーの樹に水と栄養を送る「根」で、職業奉仕はその上に成長する幹です。水と栄養がなければ樹は育ちません。このことからクラブ奉仕はロータリー活動の最も大切な基盤となる活動です。ここではロータリアンの人づくりが行われます。こうして育ったロータリアンが職業奉仕を行います。幹の先には枝が伸び果実を実らせます。これらが青少年奉仕、社会奉仕と国際奉仕であるわけです。これらの奉仕は広い意味では職業奉仕に含まれるものであることを示しています。

<ロータリーの奉仕について>

Q ロータリーの奉仕とはどのように実践したらいいのでしょうか？

A ロータリーでは「We serve」と「I serve」という言葉があります。We serve とはRI、地区ロータリー、各クラブで企画し実践している奉仕です。ポリオ撲滅運動、米山奨学生などへのサポート、各クラブの行っている実践活動などのように、財団やクラブへの寄付をもとに行う活動です。これに対し、「I serve」は会員が個人として行っている奉仕活動です。ロータリーの奉仕活動はこの2つの奉仕を両輪として行っています。

Q 「職業」と「奉仕」とは一見別々の言葉ですが、どう結び付けたらいいのでしょうか？

A ロータリーの奉仕は「思いやりの心をもって他人のために尽くす」ということですから、さまざまな局面においての思いやりの心を持って行う奉仕です。また、職業奉仕は職業を通して行う奉仕ですから、ロータリアンは職業活動やクラブでの活動を通して得たものを社会に還元し、奉仕するということになるでしょう。活動も一方的でなく、相手を思いやることが大切です。また、この活動を通してロータリアンにも多くの得るものがあると考えられます。

<職業奉仕の実践>

Q 職業奉仕は具体的にどのように実践したらいいのでしょうか？

A 職業活動やクラブの活動を通して得たものを社会に奉仕することが基本です。ここでは「I serve」について考えましょう。個人が行う職業奉仕ですから、まずご自身の職業活動についての奉仕が考えられます。ここで中心となるキーワードは「人づくり」でしょう。このことは、RI 会長が何回も言及されています、企業モラルが失われつつある現在、最も重要視されるべきことと考えられます。ご自身の職場での活動についてはいうまでもないでしょうから、社会に対しておこなう職業奉仕の実践ということになるでしょう。職業活動やクラブの活動を通して得たものを社会に奉仕するのであれば、どのような活動も素晴らしいことでしょう。

Q 具体的にはどのような職業奉仕はふさわしいのでしょうか？

A 現在最も求められているものは何でしょうか？不祥事が多発し、国の間の対話も成り立ちにくくなっている状況を鑑みると、若い人の人材育成がそれだと思われまます。それも国際的視野をもって、若者を見守る、若者と対話する、若者に交わって遊ぶ、若者と活動するこのなどが大切なのではないのでしょうか。ロータリアンの立派な職業人としての背中を見て学ぶことは沢山あるでしょうし、素晴らしいことでしょう。人材育成が主眼ですので、知識の伝達というより、人間教育・道徳教育の側面が強調されるでしょう。また、ロータリーの奉仕の理念である「相手を思いやる心」を持って、若者と接することが大切でしょう。

Q ロータリーと他の団体とどう違うのでしょうか？

A 多くの他の財団は寄付をおもなる活動としています。これはロータリーの言葉でいえば「We serve」に対応します。ロータリーは、これに加え「I serve」の2つの serve を両輪として活動している団体です。クラブの考え方、ロータリアンの考え方は多様でしょうから、さまざまな「I serve」が行われていることでしょうし、どの活動も素晴らしいものです。ロータリーは奉仕を実践している集まりなのです。

Q 例会出席と職業奉仕とはどのような関係にありますか？

A ロータリーの例会は「人づくり」の場です。ここで様々な考え方に会い、自らを高めていくことが求められています。例会で自らを高め、さまざまな職業活動を通して人づくりを行い、さらに自らを高めてゆくという、「例会→職業奉仕→例会」という循環の最初のステップです。ロータリーはこのことから例会出席を活動の重要な要素と考えています。

Q 職場で、ロータリーの倫理基準を推進するにはどうしたらいいのでしょうか？

A まずロータリーの倫理訓を理解することが大切でしょう。説かれている倫理訓は普遍的なもので、職場に知らしめるためにはハーバード・テーラーの行ったことが参考になると思います。職場の一人一人と同じ目線で語り合うことから始めることが重要でしょう。

Q 企業の社会的責任についてロータリーはどのように考えますか？

A 最近多発している不祥事も企業の指導者の姿勢の問題が大きいと思われまます。ロータリーは各分野の代表的な方の集まりですから、ご自分の企業はもとよりお知り合いの企業の代表の方ともロータリーの倫理訓を話し合い理解していただく努力をすることはロータリアンとしてふさわしい仕事と思ひます。

Q クラブの職業奉仕委員長の責務はどのようなことでしょうか？

A 各クラブで組織づくりは異なるかもしれませんが、地区の組織では職業奉仕委員会は、青少年奉仕委員会や国際奉仕委員会などと異なり固定した目標があるわけではありません。クラブの会員が職業奉仕の考え方を理解し、クラブの実情に合わせて奉仕することを後押しするのが役割でしょう。したがって、クラブ毎に取り組みは異なってくると思われれます。クラブで行われている固有な取り組みを継続されていくことが大切と思っています。委員長の務めとしては、会員に「ロータリーの職業奉仕」を理解をしていただくことに努めること、各会員からの職業奉仕実践の考えを取り上げ、「I serve」の考えにのっとり、奉仕が実現するよう後押しする努力をしていただければと願います。

Q ロータリーは企業活動で儲けたお金の使い方についてどのように考えますか？

A 会社ですから、社員、ストックホールダーに還元することは当然ですが、会員はさまざまな方法で社会に還元することが大切でしょう。ハーバード・テーラーは商品の誇大宣伝はせず、その価値を正しく消費者に伝えることで信用を獲得しました。また、利益を社会事業に充てることも重要でしょう。

Q ロータリー精神は決して特殊なものではなく、職業人が持つべき考え方です。ロータリーに入会していない人でも同じ考えを持っている人は多数いると思いますが、ロータリーに入っているメリットは何でしょうか？

A ロータリーに入ることで社会的ステータスを得るといった考え方は、今は成り立たないでしょう。やはりメリットは、様々な業種の方と接した奉仕活動を共にし、自分づくりを行い、さらに外に向かって奉仕することにあるでしょう。ロータリーは倫理運動を行っている団体であるとかんがえるのが妥当だと思います。

<若者に働きかける>

Q 出前講義や職業体験はロータリーのやるべきことでしょうか？

A 会員はいま社会で何が求められているか常にアンテナを張っておく必要があるでしょう。それは何なのでしょう。現在はソフト・ストックの時代と言われているそうです。若者・中年・老年がそれぞれのストック（知識や技能など）を持ち寄り共有する社会になっていく必要があるといわれています。ロータリアンのストックは何でしょうか。職業人としての経験は最も重要なストックで、さらに奉仕活動で得たストックを持っています。このストックを使う対象は若者でしょう。クラブの若者たちと、ローターアクトの若者と、インターアクトの若者と、などなど様々な場があります。出前授業や職場体験もその一例です。

Q 若者にどのようなことを話すのがいいのでしょうか？

A ロータリアンの皆様の経験とくに自己と成長と夢の実現のお話をするのは、若者を勇気づけます。今の状況は努力して得られてものであることとお話しいただくのはふさわしい話題でしょう。たとえば、切り口として「夢」「生命」「絆」などのテーマでご自分の人生の経験をお話しするのはどうでしょうか。これらの活動で中学生や高校生に話しかけると、相手を思いやる心が大切です。上段からの知識を与えるといったことは避けたいものです。

<その他>

Q 3つのスローガンの関係はどうなっているのですか？

A 「超我の奉仕」は奉仕の理念を、「他人に最もよく奉仕する者が、最も多く報いられる」は行動理念を表すと考えられ、ちょうどコインの裏表の関係となっています。日々、奉仕の理念を実践したかどうかをテストする（行動規範）ためのものが「四つのテスト」です。

Q 四つのテストの第3番目の「好意と友情を深めたか」は何のためにあるのですか？

A これがロータリーの本質的なところと考えられます。ほかのテストはすべて「Yes」「No」で答えられますが、このテストはそうではありません。このことは、ロータリーは「人づくり」、つまり「自分づくり」が基本になり、「他人づくり」につながることを言っているのです。

Q 一業種一会員制は何のためであったのですか？

A 当初からこの制度がありました。これは異業種の会員との交流で様々な考え方を吸収し自分を成長させることを目指していたといえるでしょう。この制度のおかげで、クラブは次々と子クラブをつくり、多くのクラブが誕生したわけです。

Q 現在、職業奉仕はRIで軽視されているのではないですか？

A そのような傾向はあると思います。職業奉仕の考えが矮小化されていきますと、他の団体との差は小さくなることでしょう。ロータリーは企業経営者の集まりで、奉仕の理想に基づいて「人づくり」を実践している団体という考えを基本に、将来のロータリーのあり方を考えていく必要があるように思われます。ロータリーへの主婦を入会を可能にするという問題も、ロータリーの職業奉仕という観点から考えることが重要でしょう。

Q 2014-2015年度RI会長のラビンドランさんの標語「to be a gift to the world」は何を意図しているのですか？

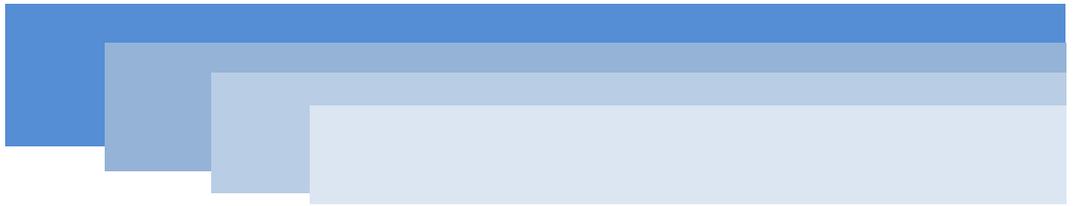
A gift から何をイメージしますか。それは相手にわたる、手渡すものでしょう。presentは少し抽象的ですが、giftは個人が個人に手渡す具体的な“もの”を思わせます。ロータリーの奉仕はこのように、寄付だけでなく個人が個人に手渡すような活動が大切であるといっているのであると思われます。

Q 人づくりは日本的な考え方ですか？

A 日本人にはとても分かりやすい考え方だと思います。本文の注釈で書いたように、歴代のRI会長も人づくりは大切だと力説しています。ロータリーは職業を通じた人づくりの実践団体であると考えるのは妥当と思われます。

Q 会社で人を雇い、利益をあげて納税することが職業奉仕と言えるでしょうか？

A このことは会員であれば当然行わなければならないことです。しかし、このことだけに閉じこもってはいは真のロータリアンを目指すことはできないでしょう。会員は自ら奉仕実践することでロータリアンに進化して行きます。



2016年5月6日

地区職業奉仕委員会

委員長 田中 徳彦
副委員長 高杉 英一
 只井 恒満

委員 林 宏毅
長谷 裕代
関谷 洋子
濱中 眞希子
桑原 健郎
北村 讓
伊藤 晴夫
入谷 治夫

